

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本観光地理 I		(NGH13I)
講義名 (コード)	日本観光地理 I A		(NGH13IA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	全国通訳案内士 総合旅行業務取扱管理者 国内旅程管理者	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本の主要観光地理を学び、日本語や英語で簡単な紹介ができる。前期は、主要都市や各地方ブロック毎、後期は、各都道府県毎に学修する。観光業界に必要な基礎地理を学ぶ。
全体の内容と概要	日本の基本的な観光地理を学び、日本人旅行者のみならず、急増するインバウンド客にも日英両語で簡単な案内ができることを目指す。
授業時間外の学修	上田城を見学して、国宝の松本城や日本各地の名城、入場者が多いお城について理解する。真田幸村を通じて、戦国時代、サムライや忍者について学ぶ。
履修上の注意事項等	母国から友人や家族が上田に来た時、どこを案内するかを発表してもらおう機会を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	簡単な自己紹介ができる。	学習者の日本語や英語のレベルを確認し、将来の仕事や夢を聞いて参考にする。通訳案内士（通訳ガイド）について自己経験を紹介する。
2	県内観光地の現況を理解できる (①)	北信地区（長野、山之内、小布施、飯山、野沢温泉）を学習する。
3	県内観光地の現況を理解できる (②)	東信地区（上田、軽井沢、佐久、東御、小諸）を学習する。
4	県内観光地の現況を理解できる (③)	中信地区（松本、大町、安曇野、白馬、上高地）を学習する。
5	県内観光地の現況を理解できる (④)	南信地区（飯田、伊那、南木曾馬籠、駒ケ根）を学習する。
6	県内観光地の現況を理解できる (⑤)	諏訪湖周辺（岡谷、塩尻、諏訪、茅野）を学習する。
7	長野県全体を概略できる。	2から7までを復習して、簡単な県内旅行を作成させ発表してもらう。
8	首都圏の現況を理解できる。 (⑥)	東京、神奈川（横浜）、千葉について学習する。
9	関西圏の現況を理解できる (⑦)	大阪、京都、奈良について学習する。
10	中京圏の現況を理解できる。 (⑧)	愛知（名古屋）、静岡、岐阜、三重について学習する。
11	⑥～⑧以外の地区の現況を理解 できる (⑨)	北海道、東北、四国、中国、九州、沖縄について学習する。
12	ゴールデンルートやエリア毎の 現況を理解できる。(⑩)	日光、箱根、高野山、北陸、世界遺産（佐渡）、日本遺産、有形無形文化遺産、グルメ、人気特産品やグルメ、各地の温泉について学習する。
13	日本全体を概略できる。	8から12までを復習して、簡単な国内旅行を作成させ発表してもらう。
14	まとめとテスト	前期で学んだ内容を中心にしたテストを実施する。都道府県かるたを覚える。
15	フィードバック	試験用紙返却、成績や結果について講評、質疑応答など。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる都道府県大百科+講師作成の都道府県かるた
参考文献・資料等	随時必要な資料をコピーして配布する。朝刊紙の中から観光関連記事を選んでペアあるいはグループ学習に活用する。（スキャニング等）
備考	随時必要な観光土産、グッズ、記念品、ゆるキャラ商品、レアリアを提示する。（例）最近、超人気の「ちいかわ」、長野県のアルクマ、千曲市のあん姫。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ホテルサービス I		(NGH13M)
講義名 (コード)	ホテルサービス I A		(NGH13MA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	竹下 芽衣子	時間数	30
成績評価教員	竹下 芽衣子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	授業の目的は、観光・ホスピタリティ業界で働く上で必要な日本語コミュニケーション力を高めること。ホテルや観光サービスに関する専門的な語彙や表現を身につけて、異文化間などスムーズな対応ができるようになることを目指す。達成目標としては、宿泊施設の予約受付、お客様の案内、クレーム対応などを日本語で自信を持ってできるようになること
全体的内容と概要	教科書【ホテルの日本語】をベースに基本の挨拶や予約対応、観光案内やトラブル対応、ロールプレイを多く取り入れより実践的な内容とする
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介を通しお互いを知り、学生が安心して授業を進められるような雰囲気づくり。	【オリエンテーション】自己紹介、コースの概要と目標、教科書やスケジュール 評価方法、クラスのルールの説明など。
2	教材を使用し基本的な知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第1課お出迎えドアマン
3	お出迎えドアマン業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
4	実際の基本的なお出迎えができる	ローブレ
5	教材を使用し基本的な知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第2課チェックインフロント
6	チェックインフロント業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
7	実際の基本的なチェックイン業務ができる	ローブレ
8	教材を使用し基本的な知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第3課案内と誘導（ベルスタッフ）
9	案内誘導、ベルスタッフの業務理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
10	案内誘導、ベルスタッフの業務理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
11	実際の基本的な案内業務ができる	ローブレ
12	教材を使用し基本的な知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第4課ハウスキーピング（ハウスキーパー/客室係）
13	ハウスキーピング業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
14	ハウスキーピング業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
15	実際の基本的なハウスキーピングができる	ローブレ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ホテルの日本語
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	レストランサービス I	(NGH130)
講義名 (コード)	レストランサービス IB	(NGH130B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小澤 ゆみ	時間数 30
成績評価教員	小澤 ゆみ	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本と自国のサービス意識の違いを知り、日本の「おもてなし」に興味を持ってもらう レストランサービスの実践を通し、敬語を使ったサービスができるようになる
全体の内容と概要	特定技能1号外食業のテキストのうち、接客全般の内容を含む知識を学習する フランス料理のマナー・サービスを理解し、敬語を使ったサービスを実践する
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 自国のレストラン・日本のレストランの体験について話す
2	ホテル内にあるレストランについて考えることができる	ホテルのレストランはどのような時に使われるか話す カジュアルレストランとの違いを考え、接客の注意点について話す
3	接客サービスについて理解することができる	おじぎの種類、接客基本用語、身だしなみについて知り、実践する
4	ホテル内にあるレストランについて考えることができる	洋食・和食などホテルのレストランの種類を調べる フランス料理店のメニューを調べ、コース料理の構成を理解する
5	サービススタッフの基本技術を実践することができる	フランス料理のテーブルセットについて知っていることを話し、実践する フランス料理の食事のマナーについて知っていることを話し、実践する
6	サービススタッフの基本技術を実践することができる	トレーの持ち方・水の注ぎ方・お皿の持ち方、下げ方について知り、実践する
7	サービススタッフの基本技術を実践することができる	チューリン・サーバーを使ったサービスについて知り、実践する
8	サービススタッフの基本技術を実践することができる	テーブルセットから料理のサービス・バッシングまでの流れ及びテーブルマナーを、ホテルスタッフとお客様になって実践する
9	サービススタッフの基本技術を実践することができる	実技テスト / 敬語ワーク
10	サービススタッフの基本技術を実践することができる	実技テスト / 敬語ワーク
11	敬語を使ったサービスを実践することができる	ホテルのレストランでのお出迎え、席案内、着席補助・お見送りの方法について敬語を使って何と云うか考え、実践する
12	敬語を使ったサービスを実践することができる	メニュー・コース料理の簡単な説明・オーダーテイクの方法について敬語を使って何と云うか考え、実践する
13	敬語を使ったサービスを実践することができる	ホテルのレストランでのお出迎えからお見送りまでの流れを敬語を使って実践する
14	まとめ	前期期末テスト（筆記）
15	まとめ	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「飲料サービスの教科書」NPO法人日本ホテルレストラン経営研究所刊
参考文献・資料等	特定技能1号外食業技能測定試験学習用テキスト【接客全般】 【飲食物調理】 【衛生管理】
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	旅行業務 I	(NGH13Q)	
講義名 (コード)	旅行業務 I A	(NGH13QA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小林 心花	時間数	30
成績評価教員	小林 心花	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	(株) JTB中部	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本国内の観光地、観光資源、旅行へ動機などを学び、 日本旅行者のニーズを把握できるようになる。
全体の内容と概要	日本の観光地について教材や電子パンフレットなどを参照し学ぶ。 ロールプレイなどでお客様に旅行をおすすめするコツをつかむ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	理解度を測るため毎授業で小テストあり

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	旅行業務の内容を理解することができる	旅行代理店の仕事内容や体験談で旅行に関する仕事の紹介。
2	旅行業務に興味を持ち、観光地の知識も身につける	国内の有名観光地を写真で学ぶ。
3	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(自然・絶景) 授業最後に小テスト
4	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(自然・絶景) 授業最後に小テスト
5	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(温泉) 授業最後に小テスト
6	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(温泉) 授業最後に小テスト
7	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(温泉) 授業最後に小テスト
8	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(温泉) 授業最後に小テスト
9	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(テーマパーク) 授業最後に小テスト
10	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(テーマパーク) 授業最後に小テスト
11	旅行代理店での接客方法ができるようになる	お客様それぞれのニーズを把握する方法をロールプレイングを通して学ぶ
12	日本の観光資源と外国旅行客の視点を合わせる	日本の観光資源についてディスカッション 外国人旅行客に人気なのはどこかSNSなどで情報収集する
13	期末テスト準備	期末テストに向けて準備を整える
14	期末テスト	前期内容からテスト
15	フィードバック	前期内容ふりかえりをする

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	地域観光産業 I	(NGH13U)
講義名 (コード)	地域観光産業 I A	(NGH13UA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	山岸 柚果里	時間数 30
成績評価教員	山岸 柚果里	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本の観光・上田市の観光の地域観光産業について理解する
全体の内容と概要	日本の観光事業に大きな影響を与えている、日本伝統工芸の体験や観光産業を知る
授業時間外の学修	日本での生活を通じて、日本の「楽しい」観光事業に結びつける
履修上の注意事項等	授業中での言語は原則的に日本語で実施するため、日本語で会話ができる程度の日本語学力が必須

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率60%以上で期末試験受験者を対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	・自己紹介ができる ・日本伝統工芸を理解できる	自己紹介が出来る。日本伝統工芸を知り、長野県の伝統工芸について考える
2	祖国の伝統工芸を発表できる	日本の伝統工芸品のような物で、祖国の伝統工芸について調べて発表
3	伝統工芸品産業について理解できる	長野県の伝統工芸品、上田市にある日本伝統工芸品のお店を知る
4	日本伝統衣装を理解できる	「着物」を知り、日本人の着物事情や着物館観光を調べる
5	四季・衣替えを理解できる	四季がある日本の季節に合わせて、衣替えがあり、季節に応じた楽しみと着物の衣替えのルールや、模様の子節の取り入れ方を知る
6	「紬」を理解できる	着物の「紬」とは何か。着物の普段着の「紬」を理解する
7	上田紬を理解できる	藤本塩田店の朝香先生による「上田紬」の講義
8	機織り体験ができる	<フィールドリサーチ> 藤本塩田店へ行き機織り体験
9	フィールドリサーチ体験を元に藤本塩田店をバズらせるアイデアを考えられる	藤本塩田店をバズらせるには機織り体験以外にどのようなモノ・コト売りがあると良いか考える。※チームで考えて発表
10	夏の風物詩を理解する	夏まつり・花火大会など季節の日本の「祭」が観光とどう結びつくか考える
11	日本の履き物を理解できる	日本の履き物文化を理解する
12	テスト内容を理解できる	春学期のテストの内容を理解し、勉強する
13	テスト勉強ができる	テスト勉強をする
14	テストを受けることができる	テスト実施
15	フィードバックができる	半年を振り返って授業の感想を報告

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	英語資格対策 I	(NKT16G)
講義名 (コード)	英語資格対策 I A	(NKT16GA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	英語キャリアコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	今学期は準2級取得のために必要な基礎固めをするため、文法の復習と単語習得に力を入れる。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	単語1～50 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集を解き、自分の弱点を知る。
2	単語51～100 / 時制・態が理解 できるようになる	自動詞・他動詞・完了形・進行形・受動態の確認と練習問題を解く。
3	単語101～150 / 助動詞の働きが 理解できるようになる	will/shall/can/ may/must/ would/ shouldの基本的用法を学びながら問題を解く。
4	単語151～200 / 不定詞・動名詞・ 分詞が理解できるようになる	不定詞と動名詞の働きを学び、慣用表現を覚える。
5	単語201～250 / 関係代名詞が理 解できるようになる	関係代名詞の使い方を学び、それに関する問題を解いてみる。
6	単語251～300 比較級が理解できるようになる	比較級を理解し、関連問題を解く。
7	単語301～350 最上級が理解できるようになる	最上級を学び、関連問題を解く。
8	単語351～400 / 現在完了形が理 解できるようになる	現在完了を理解し、関連問題を解く。
9	単語401～450 / 前置詞・接続詞が理 解できるようになる	紛らわしい前置詞・接続詞を的確に使えるようにする。
10	単語451～500 / 準2級の単語・ 熟語がわかるようになる	よく出る単語・熟語を学び、過去の穴埋め問題を解く。
11	単語501～550 / 必要な語彙・熟 語が理解できるようになる	語彙を増やすために派生語・接尾語を覚える。
12	単語551～600 / 語彙・熟語・フレー ズが理解できるようになる	語彙や熟語が自分の物となっているか復習テストを受ける。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準2級でる順パス単、DAILY3週間 英検準2級 集中ゼミ 7訂版
参考文献・資料等	Evergreen English Grammar 23Lessons
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化理解 I		(NKT16K)
講義名 (コード)	異文化理解 I A		(NKT16KA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース/観光ホスピタリティコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グローバル化が進む今日の社会で、ダイバーシティを尊重し、国際理解を深める。
全体的内容と概要	異文化理解の概念や現存する問題などを紹介し、学生自ら考え、グループワーク、ディスカッション、などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解する	各自白い紙に絵や文字で自分を紹介するポスターを作成、自己紹介
2	異文化理解はなぜ必要か、異文化理解とは何かを理解できる	文化とは何か、文化による差異を理解する
3	それぞれの学生の国について、地理的な面から学ぶことができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う
7	イメージと固定概念について理解できる	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する
8	ステレオタイプが理解できる	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える
11	世界各地の価値観について理解する①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解する②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す
13	前期のまとめ	まとめ
14	まとめと解説	期末テスト発表
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特になし
参考文献・資料等	異文化理解入門その他
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティング I	(NKT16M)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティング IF	(NKT16MF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	宮原 祥子	時間数 30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし基本的なビジネス文書、プレゼンテーションを作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でPowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすること、日本語のパソコン、アプリケーションを使えるようになりましょう 自分のスマートフォンを使っても学習ができます
履修上の注意事項等	日本語のメニューを見て操作ができるようになりましょう 資格試験もあるので1年生のうち基礎を身につけるようにしてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを理解する	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	PowerPointの基礎を理解する	PowerPointの概要、起動、新規作成、画面構成確認、入力、保存
3	スライドのレイアウトの種類 オブジェクト操作を理解する	スライドの挿入、箇条書き、図形の挿入、表作成、図の挿入
4	スライド、挿入したオブジェクトの 編集ができる	書式設定、箇条書きの変更、図形の変更、表の編集、図の編集
5	スライドショーの実行ができる 配布資料の印刷設定ができる	テーマ、アニメーション、スライドショー スライドの印刷（印刷設定、ヘッダー・フッターについて）
6	ブラッシュアップ機能が操作できる	配色・テキストの書式設定の変更 スライドマスターを使ったテンプレートの変更方法
7	Excelのグラフを挿入して 編集できる	グラフや図形の挿入（Excelのグラフ挿入）
8	オブジェクトの挿入ができる	グラフや図形の挿入（図形・SmartArt・オンライン画像の挿入）
9	PowerPointにグラフを挿入できる	PowerPointでグラフ作成 Excelとのちがいを確認、書式の設定
10	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
11	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
12	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
13	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2021 留学生のためのパソコン入門
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント、タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名(コード)	キャリアデザイン I		(NKT160)
講義名(コード)	キャリアデザイン IA		(NKT160A)
対象学科	グローバルビジネスコース	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパース代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介 【演習】キャリア面談票の記入
2	基本的なビジネスマナーを知る	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】進路活動ハンドブックの使い方、記名、活用方法について
4	キャリアについて理解できる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表 【宿題】メンターを決め、その人の「仕事観」「人生観」をヒアリング
5	レジリエンスについて理解し、自分の強みを発見することができる	【レジリエンス】レジリエンスについての理解、人生曲線の説明と記入 【演習】強みの発見
6	インターンシップについて理解することができる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップについて検索し、自分がインターンに行く企業を探す
7	自己分析し、自己紹介ができる	【自己分析】長所確認～自己PR 【演習】自己紹介文作成、発表（1分/人）
8	他人の紹介ができる	【他己紹介】友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、シェア
9	自己PR書の作成ができる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	雇用、社会、企業を理解できる	【仕事理解①】仕事の世界、産業と仕事、仕事と資格 【演習】自分の興味のある産業を考える
11	どんな仕事があるかを理解できる	【仕事理解②】職業情報収集について 【演習】自分の気になる仕事について調べる、発表（2分/人）
12	筆記試験について理解できる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
13	与えられた課題についてグループディスカッションができる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいことと、その手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	チームワークで課題についてまとめることができる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいことと、その手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
15	前期試験	【前期試験】記述式+13&14のプレゼンテーションの総合点で評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『就職内定基本テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザイン I	(NKT160)	
講義名 (コード)	キャリアデザイン I F	(NKT160F)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパーズ代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ（インターンシップ含む）
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢 ・基本的に授業の前半にインプット、後半は学生自身で調べたり考えたり、発表する時間を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができるようになる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介、キャリア面談表の記入
2	基本的なビジネスマナーを理解できるようになる	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できるようになる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】就活計画の検討と作成
4	キャリアについて理解できるようになる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表
5	自分の強みを発見し、認識できるようになる	【強みの発見】人生曲線の説明 【演習】人生曲線の記入と強みの理解
6	自己分析し、自分史をまとめることができるようになる	【自己分析】自分史/長所の確認 【演習】自分史の作成、分析
7	他人の紹介ができるようになる	【他己紹介】ジョハリの窓/友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、発表（2分/人）
8	自分の特性を知ることができる	【コンピテンシー】コンピテンシーとは 【演習】自身のコンピテンシーについて記入
9	自己PR書の作成ができるようになる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	筆記試験について理解できるようになる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
11	インターンシップについて理解することができるようになる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップを実施している企業の検索
12	与えられた課題についてグループディスカッションができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
13	チームで発表ができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	前期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【前期試験フィードバック】試験のフィードバック、前期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Webマーケティング基礎 I		(NKT16S)
講義名 (コード)	Webマーケティング基礎 I E		(NKT16SE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるための基本的な手法を理解し、実践する。
全体の内容と概要	普段目にする事の多いDTP、WEB広告などを制作しながら、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内ワークへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	制作実例の紹介、授業の進め方とWEBマーケティング・デザインの基本的な説明
2	シンプルな表現で、相手に伝えることができる	効果的なキャッチコピーを考えよう
3	基本的な要素を組み合わせることができる	ソフトの操作に慣れながら、自己紹介のPOPを作ろう
4	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街に出て、気になる看板やポスターを探そう
5	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街で見つけたデザインを発表する
6	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》体育祭のポスター作り
7	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》体育祭のポスター作り、発表
8	著作権の意味と内容、余白の大切さについて理解することができる	著作権について理解しよう・自分の手をデッサンする
9	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。□	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう
10	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。	自分自身のシンボルマーク（ロゴマーク）を作ろう 発表
11	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
12	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
13	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作、発表
14	期末テスト	お菓子のオリジナルキャラクターを作ろう
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策 I	(NKT16U)	
講義名 (コード)	検定対策 I E	(NKT16UE)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数	30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、Wordで基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成して基本操作を身につける 検定試験を目標に操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 後期からは資格試験の練習に入りますので、前期で基本的な操作を身につけてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを理解する	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	Wordを起動して操作・保存・終了 文字入力（漢字以外）ができる	Wordの基礎（起動→画面構成確認→保存） タイピング練習 文字の入力（ひらがな・カタカナ・アルファベット・記号）
3	文字入力（漢字変換）を覚える ファンクションキー・IMEをつかえる	文字入力 漢字変換・ファンクションキー変換・IMEの使用 タイピング練習
4	短文の文章を入力して 効率的な変換を覚える	短文を入力して効率的な変換を覚える
5	長文の文章を入力して ページ設定を覚える	長文を入力してページ設定を覚える
6	ビジネス文書の作成 社内文書の配置を覚える	文書作成 ご案内（社内文書）作成 文章入力→配置→保存まで
7	編集機能・書式設定ができる	編集機能（コピー・切り取り・貼り付け）の活用 書式設定（フォント・段落グループボタン）の利用
8	表の入った文書を作成できる 表の編集ができる	表の作成 表の入った文書の作成・ページ設定
9	ビジネス文書の作成 社外文書の配置を覚える	文書作成 社外文書（あいさつ文の利用）
10	オブジェクトを操作できる	画像・テキストボックスの入った文書作成 （ワードアート・画像・テキストボックス挿入）
11	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
12	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
13	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスター Word & Excel2021 留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）・レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーション I	(NKT17A)
講義名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーション I E	(NKT17AE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高木 裕衣	時間数 30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人前で自分の意見を発表することができる。聞いている人がわかりやすい表現や話し方を身につけてスピーチを行い、将来の就職の場で役立たせる。
全体の内容と概要	自分の意見を反映したスピーチを作成し、スピーチの練習を行う。スピーチを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	スピーチとプレゼンテーションの違いがわかる	スピーチとは何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいスピーチの方法を学ぶ。
2	スピーチをする前の準備の方法がわかる	スピーチ作成のステップ、注意する事などを学ぶ。まずは短いスピーチを作成する。
3	人前で簡単なスピーチができるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチを作成する。
4	人前でスピーチができるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチをクラスの中で発表する。
5	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
6	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
7	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースについて自分の意見をまとめたスピーチを行う。
8	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
9	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
10	写真を使った発表を行うことができる。	写真を見せながら短い発表を行う。クラスメートに評価をもらう。
11	国際問題についての発表を行うことができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての発表を行うことができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についての発表を行うことができる。	国際問題についての発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Listening I	(NKT17C)
講義名 (コード)	Listening I	(NKT17CX)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネスコース	配当学年 1学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	BRADT MARK JEFFREY	時間数 30
成績評価教員	BRADT MARK JEFFREY	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	To increase English listening comprehension in both professional and social situations.
全体の内容と概要	Textbook listening activities, audio video listening activities, TOEIC Listening exercises
授業時間外の学修	AI speaking partner assignments.
履修上の注意事項等	We will discuss rules regarding AI in class.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

--	--	--

回	到達目標	授業内容
1	Introduction	Course introduction. Listening strategies (gist vs. detail, prediction). Unit 1: introductions and basic listening for names and details..
2	Can understand descriptions of people.	Units 2-3. Listening for topic, gist, and details (people, clothes).
3	Can understand routines and everyday information.	Units 4-5. Listening for time, numbers, dates, and schedules.
4	Can understand work and daily life topics.	Units 6-7. Listening for gist, details, and preferences.
5	Can understand activities and frequency.	Units 8-9. Listening for frequency, predictions, and location.
6	Can understand family and social topics.	Units 10-11. Listening for similarities, details, and invitations.
7	Can understand numbers and prices.	Units 12-13. Listening for numbers, details, and attitudes.
8	Can understand everyday conversations.	Units 14-15. Listening for topics, reactions, and travel situations.
9	Can understand housing and living situations.	Units 16-17. Listening for details, plans, and certainty.
10	Can understand predictions and general topics.	Units 18-19. Listening for gist, predictions, and shopping conversations.
11	Can understand descriptive language.	Units 20-21. Listening for details, descriptions, and directions.
12	Can understand people and places.	Units 22-23. Listening for opinions, similarities, and preferences.
13	Can understand health and real-life situations.	Unit 24 + review practice. Listening for advice, details, and overall comprehension.
14	Exam Prep.	Review of all units. Practice listening for gist, detail, and inference.
15	Exam / Feedback.	Final listening test. Feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Basic Tactics for Listening
参考文献・資料等	Worksheets, Audio/Video Files and misc references.
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	動画マーケティング	(NKT17E)
講義名 (コード)	動画マーケティング	(NKT17EX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	WEBマーケティングコース/観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ターゲットと目的に合わせ、最適なプラットフォームを選択し、視聴者の行動を促す動画の企画・制作・運用ができるようになる
全体の内容と概要	単なる制作技術の習得に留まらず、戦略的な動画活用術を学びます。SNSの特性に合わせた企画から、撮影・編集、投稿後のデータ分析までを実践。視聴者の離脱を防ぎ、集客や販促などの目的を達成するためのロジカルな動画制作・運用スキルを養います。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業の準備を整える	自己紹介、目的とゴール説明、スマホの使用媒体確認、アプリケーションのダウンロード
2	基本のスマホ撮影を学ぶ	被写体を魅力的に見せるための「構図」と「光」の基本。スマホのレンズ特性を活かした静止画・動画撮影実習。
3	基本のスマホ撮影を学ぶ	視聴者を飽きさせない「アングル」の変化と「カメラワーク」。手ブレを抑え、動きのある映像を撮るテクニック
4	ワンカット撮影	編集に頼らず、事前の構成と撮影指示だけで情報を伝える「撮って出し」のワークショップ。
5	基本の動画編集を学ぶ①	専用アプリを用いた基本操作。不要な部分を削ぎ落とし、視聴者がストレスを感じないテンポを作るカット編集。
6	商用フリー素材の活用とライセンス基礎	動画制作を効率化・高品質化するためのBGM・画像・動画素材サイトの紹介。正しく素材を使うためのルール（ライセンス）の理解。
7	基本の動画編集を学ぶ②	テロップ挿入、BGM・効果音の演出。第6回で学んだ外部素材を組み合わせ、情報の優先順位を整理しながらメッセージを強調する編集技法。
8	サムネイルとタイトルの重要性を学ぶ	「クリックされる」ためのコピーライティングと、視覚的インパクトを最大化するデザイン実習。
9	SNSプラットフォーム別の最適化	YouTube、TikTok、Instagramのリール等の特性理解。媒体ごとの構成（縦型・横型）の違いと書き出し設定。
10	ターゲットに刺さる企画立案	誰の、どんな悩みを解決するか（ペルソナ設定）。課題解決型の動画コンセプト設計と構成案作成。
11	【実践】課題制作（撮影編）	企画案に基づいた撮影実習。これまでに学んだ「基本の撮影」と「素材活用」の応用。
12	【実践】課題制作（編集編）	撮影素材とフリー素材を組み合わせた本編集。音響演出やテロップによるクオリティアップ。
13	【実践】課題制作(ブラッシュアップ)	制作途中の動画への相互フィードバック。指摘箇所の修正と、細部のクオリティの追い込み。
14	最終成果物の完成と運用戦略	動画の書き出しと最終確認。
15	試験・成果発表	クラス全員で視聴。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語 I		(NKT17G)
講義名 (コード)	ビジネス日本語 I E		(NKT17GE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	原 泰明	時間数	30
成績評価教員	原 泰明	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体の内容と概要	各課のN2レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「自己紹介」ができる1	自己紹介に関する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
2	「自己紹介」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
3	「あいさつの基本」ができる1	ビジネスシーンでのあいさつに関する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
4	「あいさつの基本」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
5	「電話を掛ける・受ける」ができる1	電話対応での新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
6	「電話を掛ける・受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
7	「注意する・注意を受ける」ができる1	注意する・受ける時に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
8	「注意する・注意を受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
9	「頼む・断る」ができる1	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
10	「頼む・断る」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
11	「許可をもらう」ができる1	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
12	「許可をもらう」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
13	第1回～第12回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『ビジネス日本語30時間』（スリーエーネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーション I	(NKT17I)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーション I A	(NKT17IA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース/ 観光ホスピタリティーコース/Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	榊原 倫代	時間数 30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることで コミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実践問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向を知る	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	文章のしくみが理解できる	読解：文章全体の意味をとらえる練習をする 聴解：聴解に必要な「課題理解・ポイント理解・概要理解」の形式を知る
3	対比のしくみが理解できる	読解：ほかのものと比べながら実践問題を解く練習をする 聴解：聴解に必要な「即時応答・総理解」の形式を知る
4	言い換えの仕組みが理解できる	読解：ほかの言葉で言い換える問題を読み解く練習をする 聴解：似ている音、音の変化や縮約形などを聞き分ける練習をする
5	比喩の表現が理解できる	読解：比喩が使われている文章を読み解く練習をする 聴解：「即時応答」のスキルを学ぶ
6	試験の傾向がわかる	模擬試験
7	試験の傾向がわかる	模擬試験 F B
8	疑問提示文について理解できる	読解：なぜ、どうして、どのようになどの疑問文を使って話題を提示する練習 聴解：即時応答—最初の文を理解する
9	筆者の主張表現が理解できる	読解：筆者が自分の意見であることを示す表現を読み解く練習をする 聴解：即時応答—返事の文を考える
10	問いを解く技術を身につけることができる	読解：文章の細かい部分を正確に読み取る練習をする 聴解：「課題理解」のスキルを学ぶ
11	『指示語』が何を指しているかを理解できる	読解：「これ・それ・あれ」などの指示語を読み取る練習をする 聴解：課題理解—すべきことを理解する
12	「だれが」「何が」「何を」などを問う形が理解できる	読解：「だれが・何が・何を」などを読み取る練習をする 聴解：課題理解—最初にすることを考える
13	前期のまとめと解説	試験前のまとめ
14	前期のまとめと解説	期末試験
15	前期のまとめと解説	期末試験のフィードバックを通じて前期勉強したことの確認をする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書	新完全マスター読解N2	新完全マスター聴解N2
参考文献・資料等		
備考		

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策 I	(NKT17K)
講義名 (コード)	日本語資格対策 I A	(NKT17KA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース/ 観光ホスピタリティーコース/Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	田中 清夫	時間数 30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向がわかる	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	自分の困った状況や気持ちを説明できる・人を励ますことができる	文法（ばかりに、ものか、というものだ） 語彙（第1回）
3	自分の状況や決意したことを話せる①	文法（ばこと、ないことはない、わけにはいかない） 語彙（第2回）
4	自分の状況や決意したことを話せる②	文法（のみ、まとめ問題） 語彙（第3回）
5	これまでの経緯や状況の説明ができる①	文法（からみると、一方で、ことから） 語彙（第4回）
6	これまでの経緯や状況の説明ができる②	文法（のみならず、といった、にしたがって） 語彙（第5回）
7	試験の傾向を知る	模擬試験
8	試験の傾向を知る	模擬試験、フィードバック
9	試験の傾向を知る	フィードバック
10	レポートや論説文の説明ができる①	文法（得る、に反して、に関して） 語彙（第6回）
11	レポートや論説文の説明ができる②	文法（反面、理論上は、つつある） 語彙（第7回）
12	レポートや論説文の説明ができる③	文法（に限らず、まとめの問題） 語彙（第8回）
13	ビジネスの場面で社外の人とのやりとりができる	文法（敬語、につきましては、まとめ問題） 語彙（第9回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TRY! 日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスマナー I		(NKT17M)
講義名 (コード)	ビジネスマナー I E		(NKT17ME)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本で働くにあたって必要な基本的なマナーやコミュニケーションを習得
全体の内容と概要	テキスト+実例学習+ロールプレイを中心に行う
授業時間外の学修	日本の風習について気をつけながら生活する
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	授業概要を理解しビジネスマナーを学ぶ重要性を理解する	オリエンテーション、テキスト説明
2	自己分析ができるようになる	自分にとっていちばん大事なものは何？ 向き、不向き
3	ビジネスコミュニケーションの基本を理解する	日本で働く心構え、上司、先輩、同僚との付き合い方（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
4	ビジネスコミュニケーションの基本を理解する	身だしなみ、チームワーク（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
5	ビジネスコミュニケーションの基本を理解する	配慮のある話し方、進め方（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
6	ビジネスのルールを理解する	時間厳守、就業時間、働き方改革（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
7	ビジネスのルールを理解する	お辞儀、報告、連絡、相談（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
8	ビジネスのルールを理解する	情報管理、ハラスメント（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
9	社内マナーについて理解する	話の聞き方、指示を受けたら（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
10	社内マナーについて理解する	注意を受けるときのマナー 葬儀、贈答（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
11	社内マナーについて理解する	食事+宴会のマナー、タバコ（テキスト+ロールプレイ+実例学習）
12	日本のビジネスの特徴を理解する	日本のビジネスと海外でのビジネスの特徴を比較してみる
13	総復習	前期のまとめ
14	前期試験	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅲ	(NKT25C)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅠA	(NKT16IA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネスコース	配当学年 1/2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 春学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC5000点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TOEICテストの概要を理解できるようになる	TOEICテストの構成・概要を知る。
2	Part1の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart1の解き方を学ぶ。
3	Part2の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2の解き方を学ぶ。
4	Part2+3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2+3の解き方を学ぶ。
5	Part3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart3の解き方を学ぶ。
6	Part4の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4の解き方を学ぶ。
7	Part4+5の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4+5の解き方を学ぶ。
8	Part5の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart5の解き方を学ぶ。
9	Part6の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6の解き方を学ぶ。
10	Part6+7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6+7の解き方を学ぶ。
11	Part7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart7の解き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	